

平成30年度 瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価意見書(案)

平成30年 月
瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

1. 位置づけ

当会議は、瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議設置要綱に基づいて開催される会議である。当会議は「産官学金労言」(※1)及び公募市民によって構成されている。瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「総合戦略」という。)の進捗状況に関しては、担当課において1次評価を行い、その後、当会議において外部の立場から2次評価を行うこととなっており、本年度は総合戦略の3年目(平成29年度)の事業について意見をとりまとめて、瑞浪市に対して意見を提出する。

※1:「産」は産業界、「官」は行政機関、「学」は教育機関、「金」は金融機関、「労」は労働団体、「言」はメディアを指している。

2. 評価の範囲

当会議で2次評価を行う対象は、総合戦略の事業のうち、国の「地方創生関係交付金」を活用した事業を優先的に選定し、残りは基本目標から昨年度2次評価を行っていない事業を対象とした。

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| ①早期生活習慣病予防事業(健康づくり課) | ⑩新エネルギー利用推進事業(環境課) |
| ②認知症サポーター等養成事業(地域包括支援センター) | ⑪防犯活動推進事業(生活安全課) |
| ③一ヶ月児健康診査助成事業(社会福祉課) | ⑫移住定住情報発信事業(市民協働課) |
| ④病後児保育事業(社会福祉課) | ⑬夢づくり地域交付金事業(市民協働課) |
| ⑤生産農家育成事業(農林課) | ⑭夢づくりチャレンジ研究室事業(市民協働課) |
| ⑥児童生徒学業支援員派遣事業(学校教育課) | ⑮東濃圏域広域観光PR事業(商工課) |
| ⑦QUアンケート実施事業(学校教育課) | ⑯企業立地奨励事業(商工課) |
| ⑧耐震診断促進事業(都市計画課) | ⑰建設券発行事業(商工課) |
| ⑨耐震補強工事補助事業(都市計画課) | ⑱創業支援事業計画推進事業(商工課) |
| | ⑲コミュニティバス運行事業(商工課) |

3. 評価手法

事業の評価の手法は、事業概要、KPI目標指標値・実績値を記載したシートに、事業効果、事業評価、今後の方針を下記の区分によって評価した。2次評価においては、各事業の担当課が行った1次評価の記された事業評価シート等の資料を基に、担当課から、事業概要、投入コスト、実施状況、問題・課題、具体的改善内容やKPI目標指標値に対する実績値などについての説明を受けた後、各委員からの質疑応答を行い、各委員の判断により評価をつけた。今年度は、3回の会議により、「産官学金労言」の代表となる各委員の評価をとりまとめ、さらに委員会としての意見を集約した。

事業効果	A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を上回ったなど) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値を上回ることにはなかったものの目標値を相当程度(7割~8割)達成したなど) C: 本事業は地方創生に効果があった(目標値を上回ることにはなかったものの事業開始前よりも改善したなど) D: 本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が本事業開始前の数値よりも悪化しているなど)
事業評価	◎: 事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○: 事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった
今後の方針(目安)	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した

4. 総評

平成30年度瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議は、平成30年6月8日から7月30日まで計3回開催し、国の「地方創生関係交付金」を活用した事業を優先的に選定し、残りは基本目標から昨年度2次評価を行っていない事業を選定した19事業を評価したので、その概要を総評する。

全事業において10名の委員による効果検証を行った結果は、事業効果(4段階)では、地方創生に非常に効果的であったが23.8%、地方創生に相当程度効果があったが39.5%、地方創生に効果があったが31.4%、地方創生に対して効果がなかったが5.2%であった。また、事業の評価(2段階)では、総合戦略のKPI達成に有効であったが82.0%、総合戦略のKPI達成に有効と言えなかったが18.0%であった。

各委員からは、それぞれの事業に対して多くの意見が出されたが、いずれも地方創生の実現に向けたものであり、今後目指すべき将来の方向性に対する具体策などを参考にしてもらいたい。

平成29年度の総合戦略に位置づけた事業は、効果検証からいずれも人口減少の克服、地域活性化に資する事業であると認められる。今後は、外部評価のプロセスを通して総合戦略を改訂するPDCAサイクルを実施し、事業の実効性を高めていくことが重要である。今回、各委員から出された意見を十分検討し、事業の改善発展に役立てるとともに、行政のみならず、外部の力を活用し、地方創生を推進していくことを期待する。

平成30年 月 日

座長 橋本 孝晴
高橋 廣和
今井 浩光
森 真二
大竹 和夫
安藤 雅子
加納 明子
安藤 幸広
林 一子
正村 和英

《参考資料》

平成30年度瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員

分野	選出区分	氏名	備考
「産」	瑞浪商工会議所	橋本 孝晴	専務理事
「学」	岐阜県立瑞浪高等学校	高橋 廣和	瑞高部 部長
	中京学院大学	今井 浩光	域学連携推進部 部長
「金」	東濃信用金庫	森 真二	支店長
	陶都信用農業協同組合	大竹 和夫	東部統括部 統括長
「労」	連合岐阜東濃地域協議会	安藤 雅子	瑞浪市職員 労働組合連合会
「言」	おりベネットワーク株式会社	加納 明子	放送部 放送グループ長
公募	公募委員	安藤 幸広	
		林 一子	
「官」	瑞浪市役所	正村 和英	総務部長

瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条の規定に基づく瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）に関し、専門的な見地及び市民の立場から幅広く意見又は助言を求めため、瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議（以下「推進会議」という。）を開催することに関し必要な事項を定めるものとする。

(意見等を求める事項)

第2条 市長が推進会議において、意見又は助言を求め事項は、次のとおりとする。

- (1) 総合戦略の進捗状況に関すること。
- (2) 総合戦略の見直しに関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、まち・ひと・しごと創生の施策に関すること。

(参加者)

第3条 推進会議の参加者は、次に掲げる者のうちから市長が依頼する。

- (1) 公共的団体の推薦を受けた者
- (2) 産業・経済関係団体の推薦を受けた者
- (3) 教育関係団体の推薦を受けた者
- (4) 公募による市民
- (5) その他市長が必要と認める者

2 前項の場合において、市長は、原則として同一の者に第5条に規定する開催期間継続して推進会議への参加を依頼するものとする。

(運営)

第4条 推進会議の参加者は、その互選により推進会議の会議（以下この条において「会議」という。）を進行する座長を定める。

2 市長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めすることができる。

(開催期間)

第5条 推進会議の開催期間は、1年間を目途とする。

(庶務)

第6条 推進会議の庶務は、企画政策課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、推進会議に関し必要な事項は市長が別に定める。

附 則

この要綱は、告示の日から施行する。

【1:早期生活習慣病予防事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
継続受診率	50.0%	48.10%	若い世代に対して生活習慣病予防、検診を実施することは、生活改善及び健康の意識づけの両面から効果が得られやすいため、30歳代の市民に対して健康診査を実施します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	C	◎	継続	次年度からみずなみ健康21推進事業に統合して実施継続する。	
	C	◎	継続	一次評価と同様に継続実施されたい。	若年世代はなかなか早期予防に関心が薄いと思われるので、積極的に呼びかけをすることで受診率のアップを図られたい。
	C	◎	継続	健康増進には効果があると考えられる。	広報の仕方と受診を受けやすくする方策のさらなる工夫をお願いします。
	C	○	見直し(改善)	保健指導、治療が必要な方への対応方法を見直していくことが必要と思われる。	実績値の分母が前年度の受診者数であれば、目標値が50%では低いような気がする。
	C	◎	継続	事業の効果があつたので継続していく。	若い世代から健康の大切さを認識してもらうためにも、受診者が増えるといい。
	C	○	見直し(改善)	具体的改善内容にあるように、案内方法を検討し、未受診者への働きかけを強化してほしい。	目標指標値の設定は正しいでしょうか。継続受診は大切だと思いますが、新たに受診する人が増える方が効果的に感じました。
	C	◎	継続	早期に病気を発見することにより医療費の抑制につながる。	休日や祭日に健診できるようにすれば、働いている人にはありがたいのではないかと。毎年健診をしていますが、いつも数字を見るだけで長期の経年変化がわからないのでグラフにして見えるかデータを出してもらえれば、または、自分で書き込んでもいいですが、そのような手帳なりノート(仮称 健康手帳、100歳ノート)があれば、若い人にも健診の習慣がつかうのではないかと。
	C	◎	継続	無受診の方を重点的に働きかける。	自己負担金を出してでも、特定健診より項目を多く検査する。
	C	◎	継続	継続受診率の向上が、生活習慣病の予防に一定の効果があると思う。	得られたノウハウを課内で共有し、本事業のみでなく、他の事業などにも役立ててほしい。

その他全体意見

【2:認知症サポーター等養成事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
認知症サポーター登録人数	3,000人	3,754人	認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人や家族に対し、出来る範囲での手助けをするボランティアであるサポーターの養成を行います。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	A	◎	継続	認知症者が増加することを踏まえ、認知症サポーターの養成は今後も必要である数値目標については6次総後期計画で見直す予定。	
	A	◎	継続	今後に於いても一次評価と同様に継続実施されたい。	我々経済団体(商工会議所)としても積極的に出前講座を依頼し、認知症サポーター要請に努めていく必要がある。
	A	◎	継続	今後の高齢化社会に向けて、必要な研修であると考え。	瑞浪高校としても継続をお願いしたい。研修を受けた人が活躍できる場があるといいのかもと思います。
	A	◎	発展	少子高齢化の社会では認知症への理解は大切である。	講座を受講したものの中には、自分の意志でなく強制的に受講させられた者もいるので、受講者数だけではサポーターの養成とは言えないと思う。
	A	◎	発展	事業が効果的であったことから追加発展させる。	避けては通れないことなので理解をもってもらうためのPRが必要。
	A	◎	発展	サポーター数は目標を超えたが、より上を目指してほしい。	教育機関に力を入れて人数が増えるのは良いですが、ボランティアで実際に行動に起こせるのは一般サポーターだと思うので、重きは一般に置くべきと考えます。
	A	◎	継続	親や配偶者等近くの人が認知症になる可能性があるので、それに対して知識を持つことは大切。	講座の内容がわからないので、なんとも言えませんが、対処法だけでなく、予防法なり生活習慣とのかかわりについても知らしめる。
	A	◎	継続	地域での講座を開催してほしい。	認知症になる高齢者がこれから増えると思われるため、ますます認知症サポーターが必要となる。目標人数は達成しているが、地域的には差はないのか。
	A	◎	改善	引き続きサポーターの養成と共に、活躍の状況を把握し、本人や家族の支援につなげられるように進める。	目標を達成できるようサポーターが活躍できる仕組みを整備すること。

その他全体意見

【3:一ヶ月児健康診査助成事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
健診受診率	100%	75%	生後1ヵ月児の健診費用の一部を助成します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	B	◎	継続	子育て家庭の経済的支援策として継続して実施していきます。	
	D	○	見直し継続	様々な理由はあると思いますが、実績値が策定時より低下している。	今回の実績値の分析では表面上KPI指標が策定時より低下している。コメントで健診受診率が100%に近づいているとしているが具体的且つ明確に示されていないので現時点では上記評価とせざるを得ない。今後について具体的数値に基づいて検討されたい。
	B	◎	継続	子育て家庭には有益な事業であるとする。	対象者をどのように考えるのかを再考してもいいのでは。給付の対象でない人たちにも健診が確認できれば別の形での援助があってもいいのではないだろうか。
	B	◎	発展	目標値の100%に少しでも近づけるようにPR方法を検討して欲しい。	子育て支援のためにPRを検討し、頑張ってください。
	D	◎	見直し継続	見直し改善をおこなう。	実績値の残り25%は確実に無料の所で健診しているか確認はできているか。
	B	◎	見直し	実績値計算方法の見直し。 (無料健診がある医療機関の出生者は元から省いて計算できないでしょうか)	上限5,000円も補助してもらえるのに、なぜ健診をしない人がいるのか不思議に思いました。案内漏れがあったのでしょうか。具体的改善内容の「案内漏れが無いように」と記載されているのが気になりました。今後の取り組み内容を期待しています。
	B	◎	継続	子育て家庭の経済的支援の一助になる。	福祉医療助成事業との絡みで、無料化して子どもの未病を早期に発見することにより、子育て家庭を精神的、経済的に支援する。
	D	◎	見直し継続	経済支援を継続。	人口減少が進む中、経済支援で少しでも人口が増える対策を。
	D	○	見直し	KPIの数値を見直すこと。	把握できない目標をなぜ掲げたのか。事業を行う者として説明責任を果たせないのではないかと。適正な目標値又は全体を把握する方法を再検討してはどうか。

その他全体意見

【4:病後児保育事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
年間利用登録者数	200人	187人	市内幼児園・保育園に通う病気の回復期にある園児を、集団保育が困難な時期に一時的に預かる保育所を設置します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	B	◎	継続	共働き家庭やひとり親家庭が増加している中、仕事と子育ての両立を支援する事業として継続して実施していきます。	
	B	◎	継続	一次評価と同様に今後も継続されたい。	年間を通じて登録者数は増加しているが、利用者数が27年度12人・28年度9人・29年度18人とまだまだ市民に対する周知が不足していると思われます。あらゆる手法により周知活動を展開されたい。
	B	◎	継続	子育て家庭には有益な事業であると考え。	利用の促進を図る方策も合わせて考えてみるのはいかがでしょうか。
	B	◎	見直し(改善)	幼児園の園児の保護者に対するPRを工夫して欲しい。	場所を確保するだけで支出があるので、PRの仕方に工夫をして欲しい。
	B	◎	継続	事業が効果的であったことから継続し、順次見直し(改善)を行う。	多くの人に利用してもらえようPRして、安心して産み育てられるような体制を整えてほしい。
	B	◎	継続	子育て支援には必要。	利用人数が少ない割には予算額が大きいので、具体的改善内容にもあるように、広報活動を強化し登録者・利用者が増えると良いです。
	B	◎	継続	仕事と子育ての両立を支援する事業として有効。	KPIを設定することにそぐわない事業だと思いますので、あまり事業効果を評価しなくても良いのではないかと。
	B	◎	継続	共働き、ひとり親家庭に病後児保育事業を周知してもらい、利用者を増やす。	個人病院にチラシを配布し、共働き、ひとり親家庭に周知してもらい、登録してもらおう。
	B	◎	継続	一定数の利用があり、必要な事業と思われる。	対象者には直接PRできるので、しっかりPRをし、登録者を増やすことが重要ではないかと。

その他全体意見

【5:生産農家育成事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
直売所出荷者数	200人	136人	産物等直売所の出荷者育成のため、出荷者協議会を通じて生産農家の施設設備の増強等を支援します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	C	◎	継続	野菜が不足する時期(冬季等)に農産物等直売所「きなあつ瑞浪」への出荷量が増えている年間を通した安定した出荷量の確保に繋がっている。	
	D	○	見直し継続	現時点でのKPI目標に対しては大幅に未達であり左記評価とせざるを得ない。	現時点での評価について、理由がコメントされているが数字的に明確な示しがないため上記評価とせざるを得ない今後についても本事業は必要であり目標の見直し[実数の把握]により、継続して取組んでいかれたい。
	C	◎	継続	食料の安全性の観点からも有効であるとする。	出荷者協議会会員を増やす施策もあわせて考えてみるのはいかがでしょうか。
	C	◎	見直し(改善)	生産者が急増することは難しいので、今後も改善は必要と思う。	生産者が出荷向上できるように改善を重ねて欲しい。
	C	◎	見直し(改善)	見直し(改善)し発展させる。	会員が確実に端境期などにも出荷量を確保できるよう指導していく必要があるのではないか。
	C	◎	継続	瑞浪農業の発展を望むため。	現会員の生産量が増えるのは最善ですが、新たな会員増加で、きなあつ瑞浪に興味を持つ人が増えると良いです会員の登録方法は簡単ですか？
	B	◎	継続	天候にあまり左右されない施設栽培を利用することにより、安定した出荷が可能になる。	オープン当初よりは出荷量や品目が増えたように思いますが、さらに生産者の意欲がわくような体制、例えば全量買い取り等を行う。
	D	◎	見直し継続	出荷量が増えているのは、生産者の努力のたまものであるこれからも地元の農産物を安心して食したい。	会員の中の後継者は大丈夫ですか。市とJAの補助ができるとのことだが、条件は県と同じでしょうか。
	D	○	改善	目標値200人は、必要な数ではないのか目標を達成するための目標では意味がない。	200人という目標は、その程度の実出荷者が販売所を維持していく上で必要であり、また、農家の意欲の向上、農地の利活用を図っていく上で必要な数値との判断ではなかったのかそれを現状に合せて見直すことは、施設を整備した理由に関わることに繋がるのではないのか出荷者及び安定的な集荷量を確保できるようにすることが、瑞浪市の農業にとって大切なことではないのか。

その他全体意見

【6:児童生徒学業支援員派遣事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
支援員の派遣によって授業が円滑に行えるようになったと感じる教員の割合	100%	100%	LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥・多動性障害)、高機能自閉症等の児童生徒や不登校傾向のある児童生徒に対し、よりきめ細かな個別支援を行うために市内の小中学校に学業支援員を配置します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	B	◎	継続	多様なニーズに応じた支援員の配置は、児童生徒が落ち着いた学校生活を送るために必要である今後も、児童生徒の困り感を軽減できるよう、支援員の適正配置を行っていく。	
	D	○	改善継続	KPIは達成している様になっているが、担当者の説明に信頼性がない。本会議を軽視している。	KPI指標について目標対実績値は達成しているが、一次評価で事業効果を「B」にした理由を問いかけるも担当者が「回答できません」と拒否されたことは大きな問題である。後で若干説明はあったものの、市民参加型の会議であるまじき発言であると思います。従って事業評価は「D」とせざるを得ない。
	A	◎	継続	学校現場にとっては大変有効な事業であると考え。	限りある予算の中で有効活用されていることが素晴らしいと思います。
	A	◎	継続	授業運営がうまく進められるために継続して欲しい。	支援員の数が増えれば、より一層の支援ができると思うので支援員の増員にも頑張ってほしい。
	B	◎	発展	取り組みをさらに発展させる。	支援を必要としている児童、生徒がいる限り最大限の取り組みをしていく。
	B	◎	継続	学びやすい環境づくりに必要なため。	支援員配置で授業進行がマイナスになることはなく、円滑に進むと感じるのは当たり前なので、目標・実績値の設定方法が他の事業に比べると易しく感じました。
	B	◎	継続	現実問題として他の生徒への影響があるので、適正な配置を押し進める。	本市だけの問題ではなく、国や県からの補助、連携を考える。
	B	◎	継続	支援員の配置により落ち着いて授業ができること。	年々個別支援を必要とする児童が増加しているとのこと。病気以外なら基本家庭教育に問題があるのではないかな。
	A	◎	継続	一定の効果があると判断できる。	すべての児童・生徒(保護者)にとって満足のいくサービスとなっているのか。保護者の考えを把握することも必要ではないかな。

その他全体意見

【7:QUアンケート実施事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
いじめ解消率	100%	74.30%	市立中学校の全クラスで、学級内の人間関係を把握するためのQUアンケート(楽しい学校生活を送るためのアンケート)を実施し、学級経営に活用します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	B	◎	継続	いじめの未然防止、早期発見・対応を進めるためには、QUアンケートを活用した生徒の人間関係の把握が必要である。	
	D	○	改善継続	KPI目標対実績値が未達であり尚且つ策定時より下回っている。	本事業についても児童生徒学業支援員派遣事業と同様に担当課職員の説明に信頼性がなく意識改革が必要であると思われる。市民参加型の本会議を軽視しているところが見受けられる。従って上記評価とせざるを得ない。
	B	◎	継続	児童生徒の実態を把握するには有効であると考え。	QUアンケートの実施といじめの解決には因果関係はないと思います。QUアンケートによって今まで隠れていた問題が発見できたことが評価の基準になるように思います。
	B	◎	見直し(改善)	アンケート結果を有効に活用して欲しい。	中学生は、毎年3分の1の生徒が入れ替わるので、継続的な活用をして欲しい。
	B	◎	継続	継続して発展させる。	教師の目線では気が付かない点も発見できたり、取組みをしていることで、抑止力にもなるのではないかな。
	B	◎	継続	アンケートを通して、教師も学び考えることができる。	継続実施することで子どもたちにいじめについて考えさせる機会にもなると感じました。アンケートを通して子どもたちは大人に守られていると安心すると思います。
	B	◎	継続	学級内の人間関係なり、雰囲気はわかるのであれば継続。	いじめは中学校だけの問題ではないので、小学校でも実施しても良いのではないかな。
	B	◎	継続	いじめの早期発見に役立つ。アンケート継続活用し、教師だけでは発見できないデータを得る。	楽しい学生生活を送れるよう、いじめの芽を早く摘む。
	B	◎	継続	客観的な材料の1つとして有用と思われる。	複雑で見えにくい人間関係を把握するのに有効と思われる。

その他全体意見

【8:耐震診断促進事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
耐震診断年間件数	50件	11件	耐震診断促進計画に基づき、木造住宅及びそれ以外の建築物の診断に対して支援を行うことで現状把握と耐震工事の促進を図ります。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	C	◎	継続	前年度申込件数より減少したが、安全なまちづくりのために継続が必要と考える。	
	C	◎	見直し継続	現状に於いて地震対策は必要不可欠であり、今後も継続する必要がある。	今回の検証については、様々な理由はあると思いますが、現時点でのKPI指標について大幅に低下している。然しながら市民への説明に努力されている状況が伺える。今後にも更なる周知説明活動を継続され市民の理解を得るよう活動されたい。
	C	◎	継続	安心安全な暮らしを守るには有効な事業であるとする。	実施件数が増加するように広報などのさらなる工夫をおねがいます。
	C	◎	見直し(改善)	地震などの災害対策のため頑張ってください。	高齢者に対しては、地道な声掛けになるとは思いますが頑張ってください。
	C	◎	見直し(改善)	事業は継続し、適宜見直し(改善)。	耐震診断の重要性をPRをしていく。
	C	◎	見直し	ローラー作戦だけでなく、詳細な診断方法を周知させる。	自分が対象住宅で診断無料だと知っていても、他人が家に入るのは極力避けたいので勧められても断りたいです。診断は家に入って行うのか、何をするのか、詳細な診断方法がわかれば、受け入れ易いので、既に実施されているかもしれませんが、HPや広報にわかりやすく図示し掲載してみてもどうでしょうか。
	C	○	継続	安心安全なまちづくりに有効。	防災訓練で実施診断を行い、危機意識を持たせる。
	C	◎	継続	今後もローラー作戦で無料診断制度を周知させる。	道路(特に通学路)に面した危険家屋を引き続き調査。
	C	◎	継続	地震は起こりうるもの。耐震改修につなげるための耐震診断は継続すべき。	地道なPRと地域ぐるみの取組みを促すことも必要ではないか。

その他全体意見

【9:耐震補強工事補助事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
制度による耐震補強工事年間件数	5件	3件	地震等の災害時に建物崩壊による被害を減らすため、木造住宅の耐震補強工事に対し工事費の一部を補助します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	C	◎	継続	耐震工事により安全なまちづくりに寄与する。	
	C	◎	見直し継続	現状に於いて地震対策は必要不可欠であり、今後も継続する必要がある。	本事業についても様々な理由があると思いますが、KPI指標が目標未達であり策定時より大幅に低下している。然しながらヒアリングに於いて事業に対する取組姿勢は評価できると思います。今後についても市民に対しては当然であります、建築業界を通じての周知活動も積極的に実施されたい。
	C	◎	継続	安心安全な暮らしを守るには有効な事業であると考える。	実施件数が増加するようさらなる工夫をお願いします。
	C	◎	見直し(改善)	地震などの災害対策のため頑張ってください。	高齢者に対しては、地道な声掛けになると思いますが頑張ってください。
	C	◎	見直し(改善)	継続し、今後も見直し(改善)をしてほしい。	金銭的に余裕のない人も耐震工事ができるよう内容を緩和する。
	C	◎	継続	1次評価と同様。	改善策として、補強工事内容の緩和は効果的であるように思いました。耐震工事と聞くと大掛かりに感じるので、一部の工事でも補助が出ると耐震工事に手が出しやすいです。
	C	○	継続	安心安全なまちづくりに有効。	費用が高くつくイメージがあるので、居間、寝室等個別の補強をすることにより、安上がりな補強対策を知らせる。
	C	◎	継続	補強工事の必要性を徹底してほしい。	後継者もなく、積極的でない方にも危険であることを周知させる。
	C	◎	継続	命に関わる事業であり、継続すべき事業である。	引き続きPRに努めていただきたい。具体的な耐震工事の紹介を、区等を通じて行ってはどうか。

その他全体意見

【10:新エネルギー利用推進事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
太陽光システム設置件数(累計)	1,100件	758件	新エネルギーの利用を促進するため、太陽光発電システム設置費の一部を補助します。また、新エネルギーの導入支援について検討します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	C	○	見直し(改善)	政府地球温暖化対策計画及びエネルギー基本計画において、住宅のZEH化を進めることとされているため。	
	C	○	見直し(改善)	現行の補助メニューは、ほぼ達成したとのことであり、今後は新たな取組を検討されたい。	地球温暖化対策として新エネルギー利用促進事業については重要な事業であり、今後も新たなメニューを検討され取組んでいってください。
	C	○	廃止	一定の役割を終えた。	次期エネルギー政策に向けて瑞浪らしい独自の事業があるとよいと考えます。
	C	○	見直し(改善)	政府、県の方針に沿って新しい方法を進める。	古くなった太陽光パネルや変換機などをリサイクルできるように研究を進めて欲しい。
	C	○	見直し	太陽光発電システム推進の一定の役割は終了したものと感じます。	太陽光以外の新エネルギー推進への取り組みを期待します。
	C	○	見直し(改善)	エネファームや蓄電池等、国・県の補助事業を参考にして、新たな補助事業の取組み。	新エネルギー導入の支援は必要であるので是非進めて下さい。
	C	○	見直し(改善)	事業の再検討。	家計費の節約につながらなければ導入者は増えない。太陽光システム以外の再生エネルギーも含めて再検討が必要。
	C	○	見直し(改善)	今後の発展を望む。	新たな補助メニューを検討するには時間がかかりそう。今年度で補助が終わるため、早く次の補助を検討してほしい。
	C	○	継続	最終処理が未解決な原子力やCO2を排出する火力発電の割合を減らすことによって、CO2の削減を進める。	自然エネルギーを自前で調達することは、災害時の地電に対応できるので、自家消費については補助を継続。さらに、井戸のある家であれば、停電・断水した場合でも近隣住民への給水が可能になる。
	C	○	見直し(改善)	電力の買い取り単価が下落していて申請件数減少とのこと。市の単独補助を多めにPRしたらいかがですか。	太陽光発電システムを設置しても、何年か後にはゴミとなり処理に困らないか。
	C	○	見直し	価格の低下により、国は補助制度を廃止した。一定の成果はあり、役割を終えたものと判断する。	新エネルギーの利用推進が、市の単独事業として必要かしっかり検討する必要がある。

その他全体意見

【11:防犯活動推進事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
青色防犯パトロール実施地域(現状維持)	8地区	8地区	市民の防犯意識の向上のため、青色防犯パトロール講習会、防犯セミナーを実施します。市民による青色防犯パトロールを支援します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	A	◎	継続	市民による青色防犯パトロールなどの防犯活動を継続的に支援し、地区内外の連携強化を図ることで、安全安心なまちづくりを推進していく必要がある。	
	A	◎	継続	市民による防犯活動を継続して支援していくことで、地域の安全安心に積極的に寄与されたい。	地域の防犯対策としては、地域の住民が主体となて活動していくことが最も重要であり、それを行政として積極的に支援していくことが必要であると思います。従って今後も継続されたい。
	A	◎	継続	地域の安全に大いに寄与している。	パトロール実施者をいかに増やしていくか、その課題にも取り組んでもらいたい。
	A	◎	継続	若い世代の親への働きかけをして欲しい。	小・中学生を持つ親へのセミナー参加やパトロール講習会参加の働きかけをしてはどうか。
	A	◎	継続	自主防犯の意識高揚は今後も必要。	子ども、高齢者の見守り活動は地域にとって欠かせないものであり、活動の拡大を期待します。
	A	◎	継続	8つの地区で青色パトロール等取り組んでいただいております、安全で安心して暮らせるまちづくりの構築に不可欠です。	防犯に対する市民の方への意識を高めるため、青色防犯パトロールや地域の見守り活動の支援等をお願いしたい。
	A	◎	継続	事業が効果的であったことから継続させる。	瑞浪北中ができて、見守りも含めて防犯活動が安心して暮らせることにつながるので継続する。
	A	◎	継続	青パト活動は今後も継続してほしい。	普段からまちづくり事業に参加している住民は限られているように感じる。活動を知ってもらえるよう広く周知させ、固定された人だけでなく様々な地域住民に協力を仰ぎたいところ。
	B	◎	継続	防犯に取り組んでいることをアピールすることによって、安全安心な町を作る。	当て職の人もおり、一方的にパトロールの日程が決められているため、仕事を休んで参加することになる。パトロール中の放送にオレオレ詐欺の注意案内も加えてはどうか。
	A	◎	継続	一次評価と同様継続実施	子どもの下校時、学年によって時間差があるが、なるべく合わせて青パトで巡回してほしい。
	A	◎	継続	地域での取り組みの充実に向けての支援をする必要があるのではないか。	8地域での取り組み内容の確認と、さらに進めるため又は継続するための方策を検討する必要があると思う。KPIの見直しも必要ではないか。

その他全体意見

【12:移住定住情報発信事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
移住定住年間相談件数	50件	44件	瑞浪市の移住定住に関連した補助事業等をまとめ、パンフレットを作成し全国に向けてPRします。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	B	◎	発展	名古屋圏への情報発信を強化する。また、同窓会開催支援を実施するなど、瑞浪出身者等への情報発信を行う。	
	B	◎	発展	若者のUターン促進を図ると共に名古屋圏を中心とした県外への情報発信に積極取組されたい。	本事業については、地方創生にほぼ効果はあったものと思慮致しますが、更なる情報発信強化により目標達成されることを期待します。
	B	○	継続	今この時期をとらえて発展的な事業の展開を。	相談から移住に結びつくよう、さらなる瑞浪の魅力を掘り起こす、PRの充実にも取り組む必要を感じます。
	C	○	発展	同窓会開催支援は新しい取り組みと思われる。	同窓会開催支援のように新しい取り組みを加えて、若い世代へのPRをして欲しい。
	B	◎	発展	使用媒体を拡大すれば一層の成果が期待できる。	HPの拡充、ふるさと納税サイト等インターネットを中心とした媒体を一層活用し、若者へのPRを一層強化して頂きたい。
	B	◎	発展	移住定住人口のさらなる増加のため、情報発信は不可欠。	瑞浪市は名古屋圏への通勤は可能なので瑞浪市の魅力を具体的に発信され、移住された方の感想等され輪を広げる展開に期待すると共に、同窓会の開催支援の取り組みも今後共取り組んでもらい、Uターンの促進に繋げていただきたい。
	B	◎	発展	効果的であったことから更に発展させる。	ネットで探している人が多いのではないかと。魅力的なサイトがあるとよい。
	B	◎	発展	特に同窓会開催支援は、前進している他市の方法を習い、利用者が増えると良い。	同窓会に出席する人は毎回同じ…この支援を機に普段は出席していない人も帰省、瑞浪市に再び魅力を感じてもらえたら理想的。
	B	○	改善	東濃地方が首都機能移転の候補地であったことを踏まえ、安全安心な地であると違った視点から瑞浪市を紹介。	ただ、移住・定住の補助金がありますよと呼びかけても、メリットやアピールするものがなければ。
	B	◎	発展	1次評価と同様発展してほしい。	瑞浪市の人口増加につながるよう、まだまだ使える古民家を修繕し、安心安全な町をPR、近隣の良さも合わせPR。
	B	◎	見直し	瑞浪市の魅力を整理し、きめ細かな情報発信が必要。	移住者から瑞浪市の魅力を聞き取るなどして、ターゲットを絞った情報発信を行うこと、企業誘致の効果を最大限引き出せるように従業員向けに企業を通じた情報発信を行うことが重要だと思う。

その他全体意見

【13:夢づくり地域交付金事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
制度の年間申請件数	8地区	8地区	地域の自主的なまちづくり活動を支援するため、市内8地区で設立されている「まちづくり推進組織」に対し、夢づくり地域交付金を交付します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	A	◎	継続	地域自らによるまちづくりの継続は地方創生に効果があるため。	
	A	◎	継続	地域主体のまちづくり推進は非常に効果があるものであり、今後も継続されたい。	瑞浪市8地区全体での取組がなされ地方創生に非常に効果があるものと思いますので、今後に於いても積極的に継続されたい。
	A	◎	継続	地域の魅力を地域の方々が知ることと広報には有効である。	交付金があるが故、今まで以上の取組ができる一方で交付金があることが地域の負担になることがないよう、支援する取り組みもあってもよいのではないかと。
	B	◎	継続	8地区の活性化に向けて継続して欲しい。	8地区の課題解決に向けて、8地区の若者が意見交換できるようなまちづくりになって欲しい。
	A	◎	継続	効果・定着の確認も必要。	別枠であるステップアップ事業が起案されることを期待します。
	A	◎	継続	地域の方によって独自性をだされ、それぞれの地域の活性化のための支援不可欠であると思います。	8地区のまちづくりはそれぞれの地域の味をだされて地域を良くしていこうとする取り組みは素晴らしいと思います。今後はチャレンジ研究室の研究生と各地区のまちづくりが地域の若者を取り組んだ活動のできるスタイルの確立に期待いたします。
	A	◎	継続	事業が効果的であったのでそのまま継続。	まちづくりが活性化してきているので継続するとよい。
	A	◎	見直し(改善)	目標指標値は達成しているが、新事業の取り組みが難しい状況とあるので。このままのやり方で良いのか…。	地域住民が新事業を提案することはなかなか難しいと思う。行政が他市の情報を入手し、各地区に合った情報を展開したり提案してみてもどうでしょうか。
	A	◎	継続	地域の交流づくりになる。	まちづくりの意義はわかるし、必要であると思うが、各地区においてはまちづくりの役員の選任、会長のなり手など、まちづくりではなく負担になっている。
	A	◎	継続	まちづくりにより地域住民の絆を強める。	新たな取り組みが役員の負担が大きいとのこと。8地区役員が情報交換し、よい意見を取り入れ、少しでも負担を軽くし、若者を取り込みまちづくり活動の活性化にする。
	A	◎	見直し	新しい取り組みが必要ではないか。	若者の参加が少ないことや実施する人が固定化されていることなどから、担い手、人材の育成などが重要となっている。

その他全体意見

【14:夢づくりチャレンジ研究室事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
若者の参加者数	20人	18人	各地区のまちづくり推進組織への事業提案をもらう研究チームを設置し、若者のまちづくりへの参加を促進します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	B	◎	発展	地域のまちづくりに若い力(新たな発想)を取り入れることは、地方創生に効果があるため。	
	B	◎	発展	若者の考え、発想を取り入れることで新たな展開が生まれることを期待し今後も継続していく。	若者の力を取り入れることで新たな発想が生まれることを期待して積極的に取組んでいかれたい。
	B	○	発展的継続	地域の方々地域が地域の資産を見直すことに有効。	適切な情報提供がないと若者の発想が平板になってしまう可能性も考慮した取組・支援も大切ではないか。
	B	○	継続	地域の活性化には必要なことだと思われる。	安達学園には市外から通う学生が多い。瑞浪市で生まれ育った若者の参加を促して欲しい。成人式の年代の若者などをターゲットにしたらどうか。
	B	◎	継続	学生の発想を理解し、まちづくりに取り入れる必要がある。	再認識された課題にどう取り組んでいくかが今後難しい点と考えます。一歩進んだ議論とアクションを期待します。
	B	◎	継続	若者の意見交換の場として、地域の課題を話し合う場として研究室の継続。	各地区のまちづくりが研究生と一体となって地域の若者を取り込める活動に期待いたします。
	B	◎	継続	まちづくり事業が活性化してきているので継続すべき。	安達学園以外の若い人に参加を促したらどうか(成人式の時にPRするとか)。
	B	◎	見直し(改善)	地域に通う若者(中京・瑞浪高校、中京学院大学等)を頼りにするだけでなく、瑞浪市出身で市外へ通う学生にも広く声をかけられると良い。	左記に同様
	C	◎	継続	若い人と年長者との交流を通じて、まちづくりを進める。	小中学生からもアイデアを募り、それぞれのアイデアに賞を設けてはどうか。
	B	◎	継続	若い力を大いに利用し、地域の夢づくりにチャレンジする。	安達学園と一緒に地域が求める事業提案はできないか。
	B	◎	継続	地域とは別の視点で事業を提案する取り組みは有効。	地元の高校や大学に頼るのではなく、広く大学生や若者が参加しやすい工夫(誘致企業との協働など)も必要。

その他全体意見

【15:東濃圏域広域観光PR事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
年間観光入込客数	142万人	147万人	東濃5市が連携し、東濃圏域の観光、産業、自然、歴史、文化などの魅力を国内外にPRします。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	A	◎	継続	効果の得られやすい名古屋圏を中心に情報発信を行い、首都圏への効果の波及を目指す。2020年に大河ドラマの舞台となること、2027年リニア開業をチャンスと捉え、東濃圏域での観光PRを強化する。	
	B	◎	継続	東美濃地域全体での観光PRを図っていくことが今後の観光振興に重要なことであり積極的に取組まれたい。	今後の観光PRに於いて単独の市町では出来ないことも広域連携することで可能になっていくものと思慮致しますので、今後に於いて東美濃全体で観光振興を図っていかれたい。当地域は現在フォローの風が吹いていることを前面に打出して対応していくこと。
	B	◎	継続	今注目されている東美濃の魅力を発信する良いチャンスである。	東濃圏域が一体となって、それぞれの魅力的な個所がセットとなった提案があると面白いのではないかと。
	A	◎	継続	更なる東濃地方のPRのために。	ゴルフ場、きなあ、バサラ以外でも観光客を呼び入れるものを見つけていきたい。
	B	◎	継続	観光客の入込に一定の効果が表れている。	メディアの活用その他、体験型個人旅行客の取り込みを名古屋圏でのPR・イベント活動を一層取り入れて頂きたい。
	B	◎	継続	NHKの連続テレビ小説「半分、青い。」や平成32年度放映のNHKの大河ドラマ明智光秀の宣伝効果は大きいので次に繋げるステップとして、2027年開業のリニア新幹線で花開くよう首都圏へ向けた具体的なPRが重要となる。	東濃圏域広域事業の中で、美濃焼き・中山道・地歌舞伎の観光資源の魅力を発信と体験型観光の企画の取り組みに期待。
	B	◎	発展	事業が効果的であったのでさらに追加発展させる。	今までにない新しいものを取り入れることはできないか。個人旅行で体験型に移行しているのならば、たとえばVRを活用するなど。
	B	◎	見直し(改善)	目標値は達成しているが、実績値が前年より減少している。	恵那から瑞浪まで足を伸ばしてもらえのだろうか…観光客は1日中滞在させたいが、市内には宿泊所が少ない。
	A	◎	継続	観光の面から東濃地方を知ってもらうことによって、移住定住、企業誘致に繋がる。	観光の面から東濃地方を知ってもらうことによって、移住定住、企業誘致に繋がる。
	A	◎	継続	リニア中央新幹線開業に合わせ、東濃5市の魅力を発信し、首都圏、関西圏の客を増やす。	東濃5市が連携し、NHK朝ドラの話題の岩村への観光客を、他市が素通りさせぬよう取り組み、個人旅行の滞在時間を増加させる。
	B	◎	継続	引き続き、市の観光PRを行う必要がある。	本市は、観光的魅力は低い。これを上げていくためにも広域での取り組みは重要である。

その他全体意見

【16:企業立地奨励事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
支援による立地工場数	3件	1件	市内への企業誘致・創業支援のため市内で創業した企業に対し奨励金を交付します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	C	◎	継続	企業誘致における経済活性化と雇用の創出の面で有用であるため。	
	C	◎	継続	企業誘致を推進することで地域活性化に繋がるものであり、今後も積極的に取組まれない。	企業誘致に於いては、エイ・ダブリュ瑞浪の進出が決定し、それを起爆剤としたエイ・ダブリュ関連企業の誘致を含め積極誘致活動を展開することで地域経済の活性化に寄与されたい。
	C	◎	継続	しごと創生には有効。	企業立地についてはよくわからないが、若い人たちが地元で働ける魅力的な企業(仕事)があることは重要だと考えます。
	C	◎	継続	平成30年度は3件の新規工場立地が決定しているため。	釜戸中学校の跡地の有効活用をして欲しい。
	C	◎	継続	雇用確保には有益な事業である。	遊休地や空き工場の情報を金融機関と連携がとれる仕組みを構築し、取り組みを進めていただきたい。
	C	◎	継続	人口の増加には企業誘致は欠かせないので積極的な事業展開に期待。	市有地だけでは限られるので、民間の工場跡地等情報の共有化を図り、幅広い企業誘致を展開して行く。
	C	◎	継続	瑞浪市の活性化のため継続。	市有地がないのであれば民有地の広いところはないのか。
	C	◎	継続	平成30年度は3件見込まれているとのことですが、引き続き目標値を達成できるよう活動してほしい。	貴重な空き地をどう活かしていくか、地方創生に役立つと良い。
	C	○	継続	企業誘致による人と経済の活性化を図る。	大きな工場の誘致ではなく、インフラを整備してテレワークができる場を提供する。 ※テレワーク・・・遠隔地で行う仕事(Tele Work)
	C	◎	継続	1次評価と同様継続	閉校後の学校跡地、民間が所有する工業跡地を活用した企業誘致を今後もお願いします。
	C	◎	継続	地場産業が縮小する中、地域経済にとっては、引き続き企業誘致を推進していく必要がある。	農地を含めた企業用地の創出を引き続き検討することが必要ではないか。

その他全体意見

【17:建設券発行事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
消費喚起額	330,000千円	411,729千円	市内の消費喚起を促すため、住宅の改修等の際、市内の協力店で使用できるプレミアム付き建設券を発行します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	A	◎	継続	建設に関する需要を喚起し、市内経済の活性化に資する事業である。	
	A	◎	継続	建設関連のプレミアム商品券で発行額の約1.8倍の経済効果が生まれており、今後も積極的に取組まれたい。	本事業は建設関連の商品券事業であり相当な経済効果が表れており、今後も積極的に事業展開されたい。又平成31年度は消費税増税を控えており、政府も消費喚起の施策を行う可能性があり、瑞浪市独自の施策と併せ、一般プレミアム商品券発行事業も視野に入れ対応されたい。
	A	◎	継続	市内経済活性化の効果は大きい。	非常に魅力的は事業であるので、ぜひ広報に力を入れてください。
	A	◎	継続	地元の経済活性化に必要と思われる。	建設業者からのPRが成果をだしているのので、今後も業者からのPRを有効活用して欲しい。
	A	◎	継続	事業効果の実績は大きい。	建設業者、市民ともに有益な事業であり、継続的な取り組みをお願いしたい。
	A	◎	継続	瑞浪市内の経済の活性化に繋がる事業として期待できる。	瑞浪市内の84事業所登録が事業の常態化の懸念あり、登録業者の増大が必要である。
	A	◎	継続	市内の建設業が活性化できてとても効果的であったことから継続する。	建設業者にも事業の認識について違いがあるので業者がPRしやすいシステムに周知が必要である。
	A	◎	継続	適切な実施時期を想定することが重要であることがわかった。半数以上が建設業者から事業を教えてもらったというアンケート結果から、実施時は行政関連外でも様々な手段で周知し、使用を促すことが必要ことがわかる。	左記に同様
	A	◎	継続	地元企業を利用することによって、地域経済の活性化を図る。	予定した工事があればよいが、急に工事が必要になった時に、売り切れていけば利用できない。
	A	◎	継続	1次評価と同様 継続	協力店の負担は申し訳ないが、一般市民としては大いに助かります。消費税改定前にいろいろ修理したいので、プレミアム付き建設券の金額を増やし発行してほしい。
	C	○	見直し	本来、景気対策で行われた事業であり毎年行う事業ではない。	KPIが、発行額と同額、又は、プラス1億1千万円となっているが、根拠がわからない。この事業によって、過去の実績よりどれだけ消費がプラスされたのかを計るべきものと思う。家屋等を持たない市民にとっては、メリットが無い。本来は、総合的な景気対策の1つとして実施されるべき事業ではないか。

その他全体意見

【18:創業支援事業計画推進事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
創業支援対象者年間相談件数・年間創業者数	70件・14件	68件・8件	市内で創業しやすい環境を整えるため、「創業支援事業計画」を策定し、必要な経費の一部を補助するなど創業者の支援を推進します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	B	◎	継続	H29年度は、1月～3月に創業セミナーを開催し、そのセミナーを受講者が、H30年度のチャレンジ補助金を活用できるよう、単独の事業ではなく、一体とした取組みで創業者を支援できる形へと変更した。今後も創業者への支援を行い、市内の経済活性化と雇用の促進を図っていく。	
	B	◎	継続	創業支援事業による起業家の創設に取り組むことで当地域経済の活性化を図る。	本事業についての補助金は、近隣他市町村にはない瑞浪市独自の手厚い補助金事業であり、今後も瑞浪市の独自性を発揮し積極的に取り組んでいくことを望みます。
	B	◎	継続	しごと創生には有効	継続的に業務が行えるような支援体制の構築も重要に思えます。
	B	◎	継続	創業する人が増えれば瑞浪が活性化できる。	創業した人たちを前面に出してPRして欲しい創業者の店舗を身近に感じて利用しやすいし、創業を考える人を増やせられるのではないかな。
	B	◎	継続	相談から創業へと件数が比例しないのは仕組みだけでは解決しない問題と考えます。上記手法の継続でよいと考えます。	各地域ごとで必要とされるサービス事業に重点を置くべき。行政、金融機関の積極的な関与と情報発信力の工夫が必要。
	B	◎	継続	創業者への補助金の交付は少しでも力になりますので、継続で！	創業支援で市・商工会議所・金融機関との連携により、創業支援のセミナー・アフターフォロー等内容は充実していると思う。
	B	◎	見直し継続	見直して継続する。	瑞浪市で企業したからには 少しでも長く続けていけるようにアフターフォローが必要である。
	B	◎	継続	目標値まであと少し。創業したくても踏み出せない人の後押しができる。	どれ程の規模でこの事業を利用できるのか規模感がわからないので、まずは創業希望者が気軽に相談できるよう、過去の実績をパンフやHP等で紹介する。
	C	○	継続	新しい店、空店舗のないまちづくりをすることによって、経済の活性化、人口の流出に歯止めをかける。	事業を始めるには利益がでなければ意味がない。では、瑞浪で始めるメリットがあるのか、いろいろな点から環境整備が必要。
	B	◎	継続	創業者へのアフターフォローが大切。	創業された方の業種等はどの情報でわかるか。
	B	◎	見直し	創業支援となるセミナーや相談、事務スペースの提供などの支援を充実してはどうか。	従来からある業種の店舗開店のための経費の補助では、市民や地域にとっての効果は薄いのではないかな。新たな事業やビジネスモデルを創造するような事業支援も考えていただきたい。

その他全体意見

【19:コミュニティバス運行事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
コミバス年間利用者数	100,000人	75,740人	市内の公共交通施策として、コミュニティバスを運行します。運行にあたっては、地区の要望に基づき、路線、運行時刻の変更等の対応を行います。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価	B	◎	継続	交通弱者の足の確保として、公共交通は必要不可欠なサービスであり、事業継続は必須である。	
	B	◎	継続[改善]	瑞浪市は広域にわたって交通弱者の足の確保として本事業継続は必須である。	コミュニティバス事業の運行内容の見直しと併せ、デマンド交通、タクシー等々を含めた総合的な公共交通の在り方を検討し積極的に進めていく必要があると思慮致します。
	B	◎	継続	市民、特に交通弱者にとっては有効な事業である。	需要のあるところに着目していただけるとありがたい(勝手な意見ですが…)
	B	○	継続	交通弱者へは大切な問題である。	高齢者や生徒・児童の生活において、本当に必要な地域への活用を検討して欲しい。
	B	◎	継続	高齢者特に運転免許証返戻世帯者には事業の維持継続は必須。	病院、スーパー等高齢者の生活に不可欠な施設への運行の一層の拡充が必要。コスト優先的な考えでは成り立たない重要事業。
	B	◎	継続	高齢者の免許証の返納、釜戸・大湫・日吉地区等不便な地域を考えるとデマンド交通を含めたコミュニティバスは不可欠であり、充実を図って下さい。	平成31年度の瑞浪北中学校開校に合わせたスクールバスの導入で見直しが必要であろうが、利用者の拡大にどう取り組むかが課題である。
	B	◎	継続	交通弱者にはなくてはならないので継続する。	スクールバスも含めて本当に必要な人にとってどのような方法がよいのか考えていく。
	B	◎	発展	交通弱者に利用しやすい方法を、しっかりとヒアリング。	利用者や地区の要望に基づいて利用しやすいよう変更しているにも関わらず、なぜコミバス利用者は減少しているのか…。デマンド交通がどれくらい増えているのか把握できているのか…。
	C	○	継続	今後、団塊の世代の高齢化にともない、免許返納も増え、交通弱者の足の確保が必要。	免許を返納した後、歩けるうちはコミュニティバス、歩くのがままならなくなればタクシー、もっと悪くなれば介護タクシーと、さらなる高齢化による足の確保は非常に重要。
	B	◎	継続	1次評価と同様。継続	高齢者が車の免許証を返納するということがあり、コミュニティバスを利用することが多くなり、交通弱者により細やかに配慮し、安心して暮らせる市を望みます。
	C	○	見直し	実績値が年々低下しているため、KPI及び事業の見直しが必要。	実績は年々低下しているが、経費は増加している早急に事業全体の見直しが必要と思われる市民の移動手段の確保として、あらゆる方法を検討し、効果的な方法を包括的に実施されることを希望する。

その他全体意見
